

佐志岳 (南部中学校通信) No. 6

前へ☆ 周りへ☆ 発信!

学校教育目標 「心豊かな生徒」「自ら学ぶ生徒」「心身ともにたくましい生徒」

校 訓 「自主・責任・規律・親和」 R5. 6. 12発行 文責 校長 本多 博

令和5年度 第18回平戸市「少年の主張」大会で
下門和弥(3年生)君が南部中学校代表として、堂々と発表しました。

昨日(6月11日)平戸文化センター大ホールにて、第18回平戸市「少年の主張」大会が行われ、南部中学校からは3年生の下門和弥くんが代表として発表しました。残念ながら、入賞は逃しましたが、「過疎問題解決」への危惧とその解決方法を自身の体験も交えながら、堂々と誠実に発表しました。その主張は、会場の参観者にしっかりと届いたはずです。

今回の学校通信の裏面には、下門和弥くんの発表原稿を掲載しています。ご家庭で、過疎問題について考えるきっかけにしてください。



南部中学校生徒総会が行われました。

6月1日(木)の午後、南部中学校生徒総会が実施され、南部中学校を生徒自身の手でより良くするために討議を行いました。

この生徒総会に向けて、生徒たちは生徒会から出された議案を各学級で検討し、より良い学校生活について話し合いを重ねてきました。こうした経験を通して、自治や自律について、中学生の段階からしっかり考えてほしいと願っています。



生徒総会とは、今年の生徒会活動、専門委員会ごとの活動内容を生徒全員に伝えたり、学校生活の実態や要望を把握しまとめ、改善を図るための会です。生徒の皆さんには生徒総会で、学校生活を通して気付いた改善点を発表してもらおうと思います。皆さん一人一人の意見がこの南部中学校の学校生活をより良いものにする第一歩となるかもしれません。(後略)

生徒会長 烏山 望

みなさんは、過疎と聞いて、まず何を思い浮かべますか。僕は、小学生の人数減少や、それによる閉校問題を真っ先に思い浮かべます。実際、僕は小学校3年生までは中津良小学校に通っていましたが、中津良小学校が閉校になったため、小学校4年生からは津吉小学校に通いました。今は南部中学校に通っていますが、朝はスクールバスを利用しています。帰りは親に車で迎えるに来てもらうことが多いですが、ふれあいバスを利用することもあります。バスがあることで助かっていますが、雨の日や寒い日は不便を感じることもあります。また、家族や身の回りの人たちが、昔は子供がもっとたくさんいたのに、と話しているのを聞くと、悲しい気持ちになります。

なぜ、小学生の数が減っているのでしょうか。大きな原因として、大都市のほうが、平戸市と比べて暮らしやすいということが考えられます。公共交通機関が充実しているため、通勤・通学や買い物がしやすく、非常に便利です。他にも平戸市と比べて娯楽が多いことも挙げられます。

しかし、人々が便利さを求めて大都市に集まっていく一方で、過疎によって引き起こされる問題があります。現在、神奈川県を除くほぼ全ての都道府県で過疎問題が発生しています。過疎が引き起こす大きな問題の一つに公共交通網の破壊が挙げられます。公共交通機関の利用者の減少により、鉄道・路線バスの減便・廃線が問題になっています。次に、公共施設の閉鎖問題です。公立小学校の閉校、病院の規模縮小などが挙げられます。さらに、商店街の衰退や、耕作放棄地の増加なども問題になっています。このように、過疎地域は大きな問題を抱えています。

現在、政府はこの問題を真っ先に解決しようと取り組んでいます。その土地の名産品や観光地のPRに力を入れることで、移住者の確保に取り組んでいます。他にも、空き家などを利用して低い家賃で住むことができる家を用意しています。平戸市でも、空き家バンクという取り組みが行われていて、移住者の増加に役立っています。政府だけでなく、自治体ごとにさまざまな工夫を行い、その土地の問題を解決しようと取り組んでいます。

近年のコロナ禍で、感染を防ぐために地方に移住してリモートワークをする人たちが増えました。こうした人たちは生活の便利さや娯楽といった大都市の魅力ではなく、地方にしかないものに魅力を感じていると思います。例えば、自然の豊かさやおいしい食べ物などに対してです。南部地区には、豊かな自然を見渡すことができる佐志岳や、魚釣りや海水浴を楽しめる青い海が広がっています。

先月、中津良地区で「ほたる祭り」が開かれました。中津良川沿いでは、5月中旬になると光りながら飛ぶホタルを見ることができます。また、南部地区では、いちごやアスパラガスなどの農産物、ひらめやうちわえびなどの水産物が豊富で、おいしく味わうことができます。こうした平戸の魅力を発信して、観光地や名産品を有名にすることで、若者が働く場所を増やし、移住しやすくすることができると思います。これらの平戸の魅力を、平戸に住む僕たちが中心となって広めていくことが、移住者を呼び込む最も効果的な方法だと思っています。僕は将来、農家になって「地域の野菜を多くの人に食べてもらえるように広めたいと思っています。そのために、野菜の育て方やホームページの編集を勉強したいです。過疎問題の解決のため貢献できるよう努力します。